青山御流
活花手引種後篇
五

筆頭觧競方今秀
甁裡花欺絶代人

朝鮮　菊圃

菊圃

嗚呼器哉這升筒也奥邪某雅人
者之丙申秋九月
大燈國師五百年遠諱頌偈之曰
挿奇花備
敕使尊官之高笑屠山僧譜記乃
銘錦[illegible]題云
一笑尊者升叢國師花
豈當今朝色千爍簇彩霞
丙申臘月
前大德明堂宣



天保七年丙申初冬於紫野大德寺塔頭松源院勅使之間挿之

山茶（つばき） 白三花

采滴亭蘭溪
通稱 奥村勘員藤原金良

芒（すゝき）
翠菊（こんきく）十七輪
嘉永二年己酉八月挿於
華頂山大書院

秋風のなひくはみなかむ衣のうよ袖　ちか
千代とのこ〻し花すゝき哉

開右齋荷月
通稱　民部卿學念

玉簪花 九葉三花

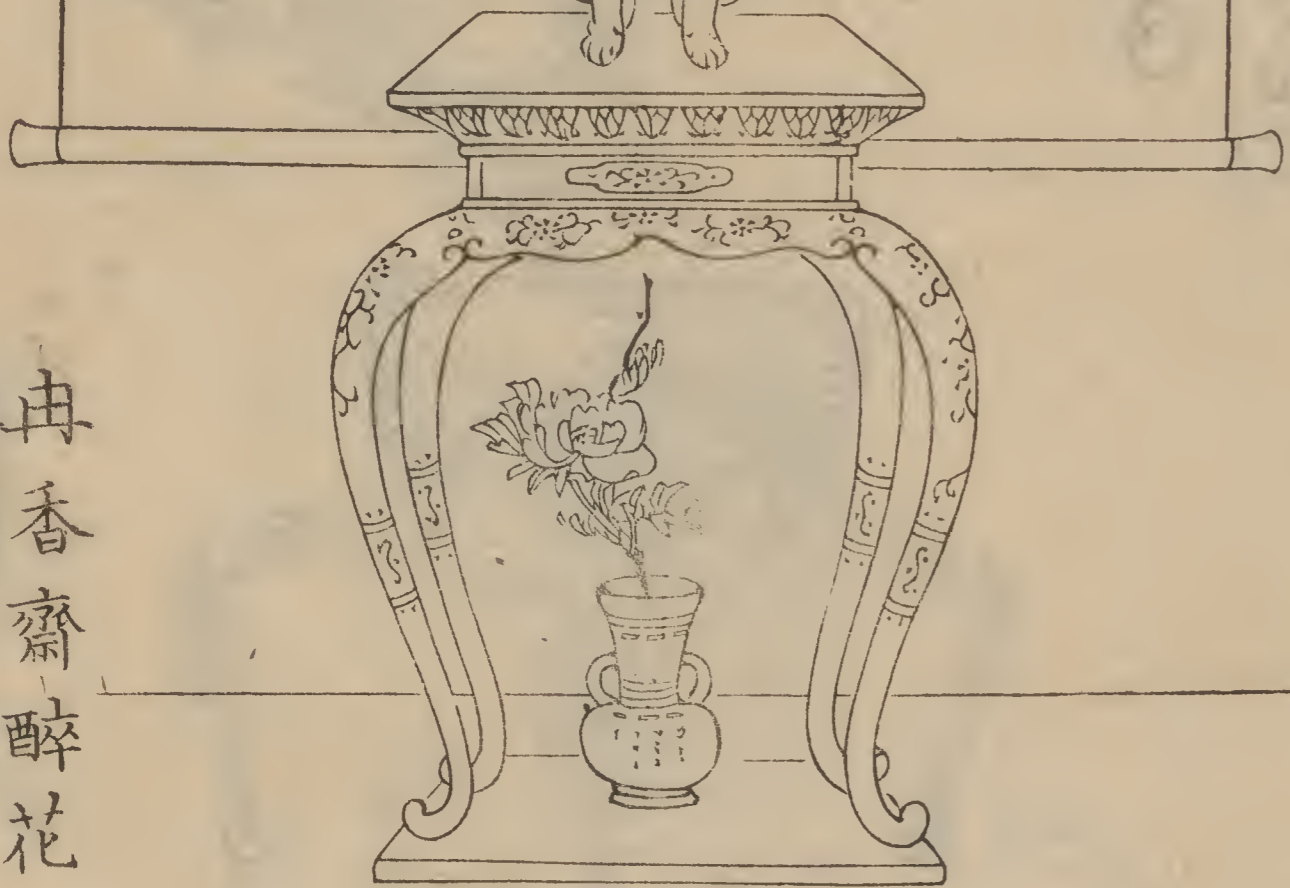
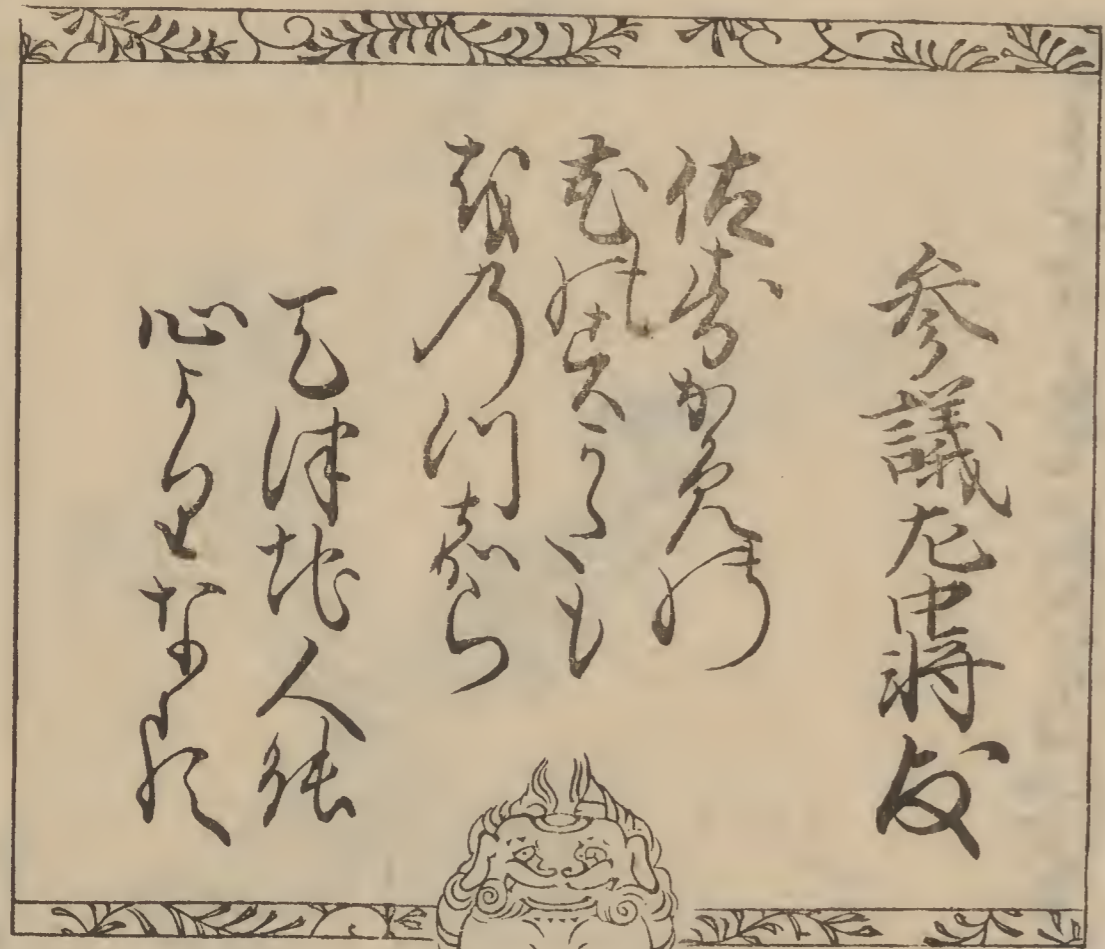
葉秀

章雲齋青雅
通稱 鈴木金兵衛



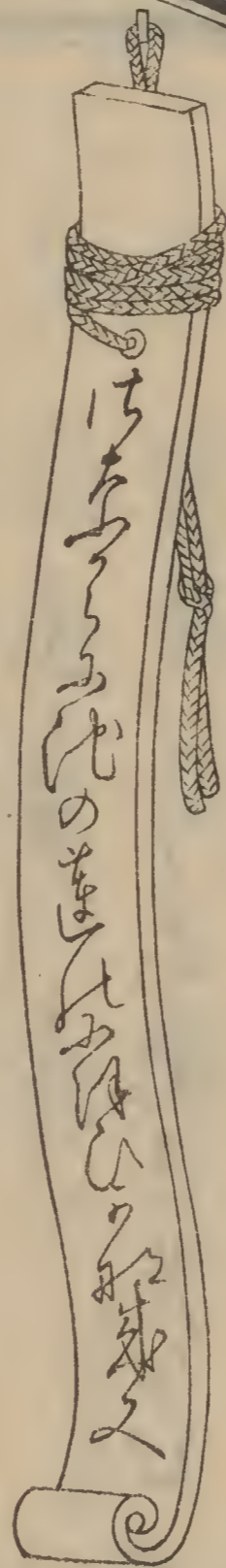
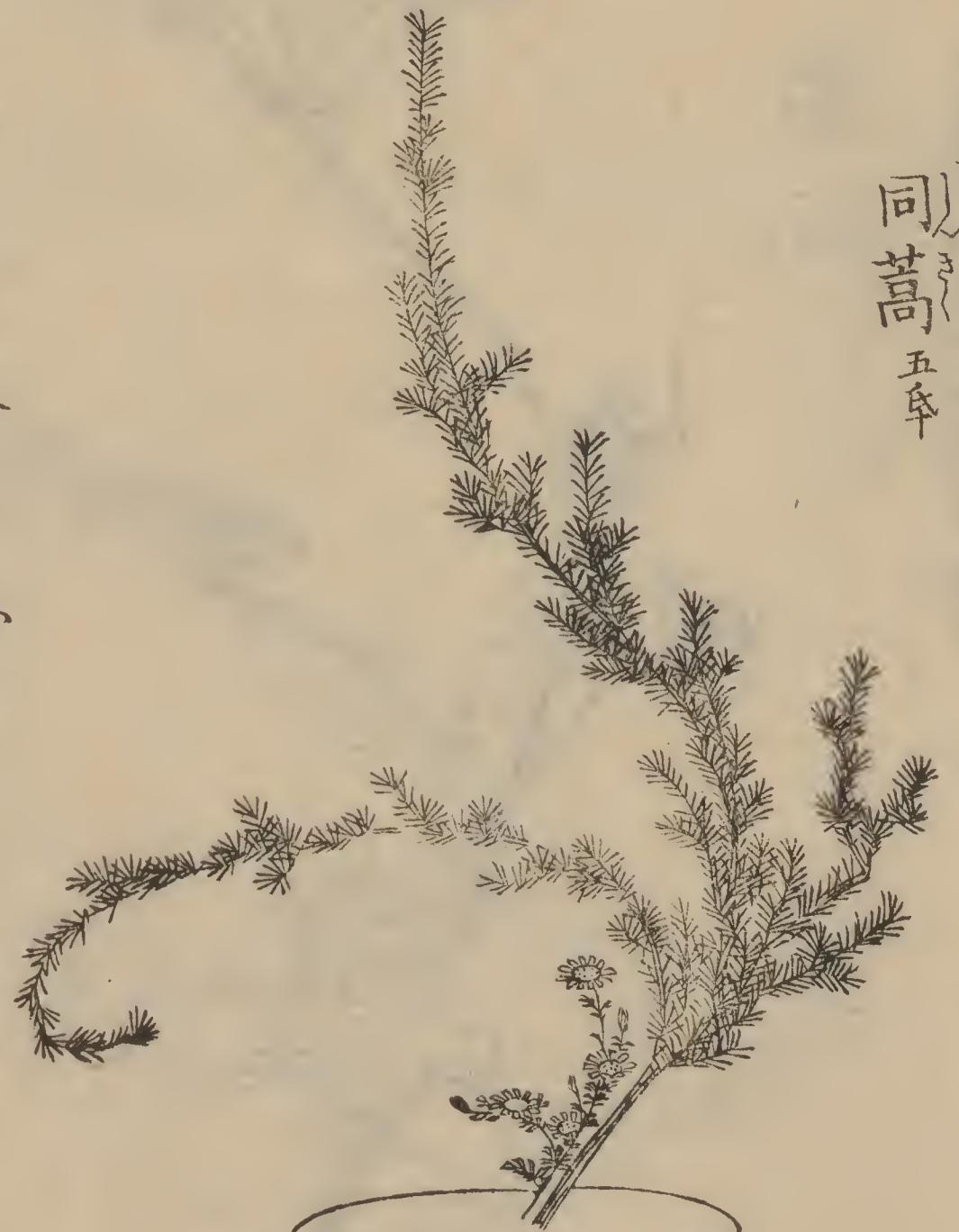
梅
萬年青 九葉二実
嘉永四年辛亥正月挿花
華頂山大書院

近江國西沼浪
秀永齋湖月
通稱 西田莊左衛門

東園宰相中將基貞卿

参議左中将父

温牡丹

冉香齋醉花
晴月園男
沼尾一藤原光紹

吹上菊（ひげきく） 十五輪
竹器銘鼎
美昇軒梅月
通稱 北川権次郎
蓮 二花 五葉
嘉永七年甲寅閏七月挿於
六條枳殻御殿臨池亭
壽蓬齋仙雅
通稱 吉田伊三郎
應文寫

一葉（ばらん）十三葉

葉静帆ゝ静
風扇葉ゝ扇

茶梅花（さゞんくわ）
菊（きく） 黄手まり 十九種

器 五郎三郎作
錫春軸臺 無双作

枝々をとめて
手際の
なつのえんれ
五竹菴有憩

紅情齋緑意
通稱 稲田忠蔵

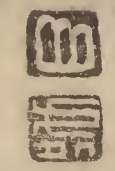


白藤（しらふぢ）
鳶尾（いちはつ）（コヤスグサ）

竹器 銘 寿星

ふぢのしら波ちりそめしも
此ころ心にいろつくもつれよせやすらん
保明

筑前國遠賀郡山家
暁雲齋花濤
通稱 米屋勘助

山変

盆山 夏之瀧

嘉永四辛亥四月朔日於東山雙林寺文阿弥會莚打之圖

千波におとも
きこえて
たきつせ落る
御代のあまたを
見るものとしし

良英

藏六齋義貞

通稱 前川四郎次郎

祥年寫





菊(きく) 時雨すゞり 九輪

水仙(すいせん) 五本

器 廣耀齋鑄

秋菊有佳色

揭陶淵句

海仙

壽僊齋痩石

通稱 赤尾半左衞門

玉蘭（もくれん）　紅梅（こうばい）　五粒松（ごようのまつ）
山茶（つばき）本阿弥白
燕子花（かきつばた）一本

窓月軒凌雲
通稱　別所健次郎
藤

春如海一掬貯金鉼
好夢易醒花易老
憐玉惜香排雲屏
鶯語隔簾睡
夢江南調
月洲居士

南天燭(なんてんしよく)
寒菊(かんぎく)

みゆきふる冬の河にも高らかに
にしきをつくる花のすまひ人　正切

香風軒翠煙
通稱　春日龜彌太郎

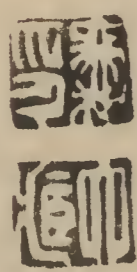


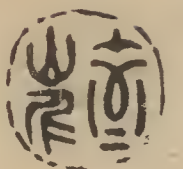


梅(うめ)

香にも清く手に添えて
百米乃花　月初

大和國郡山
蓬月齋花嘯
通稱　宇野源之助

五鬣松
菊　十二輪

嘉永三年庚戌九月洛西嵯峨天龍寺
開山夢窻國師五百回諱法會時挿之
於方丈書院

香泉軒子篤
通稱　安村吉兵衞

器　青磁七官　天龍寺所藏

射干(ひあふぎ)　五本

[illegible]　吉介

筑后州柳川
一滴齋信城
通稱　眞勝寺

八角金盤(やつで)
燕子花(かきつばた)
穪(すゝき)　二本

閑雲齋野鶴
通稱　森木武助

一葉（はらん）十五葉
花器 江部 渡雲齋鋳

蝶化荘叟々非蝶
幻叟一場或不人
金翁

清亮

玉松齋眉山
通稱 植村駒之助

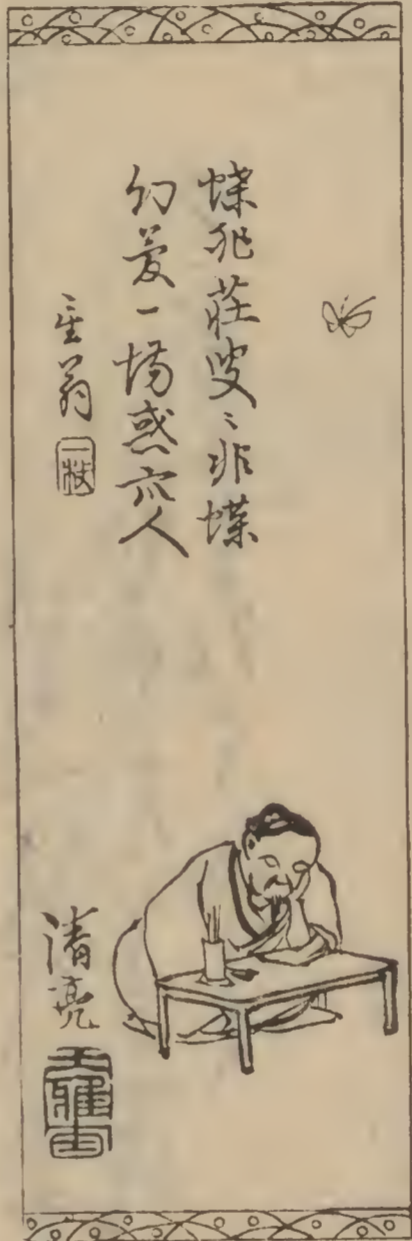


彼岸櫻（ひがんざくら）
花器 龍文堂鋳

人ごゝろ八重にさきそへ
そむき来れ我のふかき乃
桜なるらむかし
美知

桂松齋花友
通稱 長谷川與四郎

白桃(はくとう) 紅桃(ひとう)

竹器 銘 鴈門

三千歳廼春者波留計
志従今年百歡農数乎
嘉曽返年　藤原明忠

大和國奈良
壽春齋香雅
通稱 高木又兵衛方義



燕子花(かきつばた) 三本

花器 山田無雙鑄

松關齋如友
通稱 井上茂左衛門

豌豆

㕛木齋洲雅
通稱　川嶋直次郎

奪將化機手揺曳美風姿只
藉一瓶水生生無盡時

張氏紅蘭

堀川正三位康親卿
嘉永四年辛亥初冬挿於
園御殿御座之間
五鬣松 槭樹 黄葉 紅葉
梅 水楊 山茶 白三花
人面竹 一葉 七葉
菊 十九輪 水仙 花三本 葉二本
器 龜齡堂鑄
山城國准御會頭
春月亭柴田濯栟

人ミ心ゆるめ手をもとりてたまへる
おりせき図画にあらわれてつきく
みりそりふいとあつるにあく
しる奈く おほえ侍て 延之

世中ふかくより理奈しておる時も
みところ花をえ写り本も奈し

依 華葉園ふ通 楷採ふ新出図
鑒草手種 鐘石 [印]



草木の正字異名等雜に園中ハ傍ニ標出すべきなれど図位の猥雑せむことを憚りて左ニ贅記しつ

賢木（サカキ） 古事記 坂木 日本書紀 龍眼木 漢語抄 榊 宝基本紀 但倭字なるべし

鶯宿梅（アウシクバイ） 紀貫之の女梅の木をたてまつりて歌よみけるより此名あり 大鏡 又一説ニ和泉式部の事とするは非なり

山茶（ツバキ） 本艸綱目 書紀及ビ和名抄ニ海石榴を書て豆波木と訓は倶ニ非なり 海石榴は朝鮮ザクロ也 すべて椿と書事もいと古くより誤りきたり 椿ハ和名玉ツバキ又キヤンチンと言ものにて漆樹ニ類せしもの也

菊（キク） 和漢通名 書紀ニ久々とよめる古訓なり 和名抄ニ加波良与毛木 一ニ云可波良於波岐と有り 又類聚國史 日本後紀ニフヂバカマの歌あるは菊ニハあらずと鈴廼屋翁の説あり 和名 翁艸 唐山ニて 白頭公 日精 草 和名抄 齢艸 一名 節華 女節 周盈 女茎 更生 傅延年 金蕊

竹（タケ） 本艸綱目 一名此君 和名 千尋草 石世草 同

江南竹（モウソウチク） 一名雪竹 南竹 同 また孟宗と書ハ雪中ニ早く筍を生ずる事の名也

萬年青（オモト） 本艸 一名 蒕 千金子 烏木毒 萬年春 同 新編 藜蘆と書も訛なり 藜蘆ハシユロサウと云毒草なり 和名 老母草 壽草

絲柏（イトヒバ） 漢名未詳 花戸ニ垂糸柏と云 又瓔珞ひばといふハ同類別種なり

燕子花(カキツバタ) 漳州府志 杜若と書ハ誤りなり杜若ハヤブミヤウガ一名杜衡神農本経といふものにて俗にいふ薮生姜なり 和名抄に劇艸を加岐豆波太とするも誤なり劇草ハ馬藺なれ
萬葉集にハ垣津旗とあり縣居翁ハ借字なりと言り又春満ハ翔燕花の義と言り
萬葉字木異名集にハ顔吉花とかけり又伴信友の考にハ畫附花(カキツケバナ)の義といへり

蘭(ラニ) 食物本艸 上代ハ蘭を不知波加末と言て今の蘭とハ別種なり

蓮(ハチス) 本艸綱目 ハチスハ蓮房蜂窠に似る故に名とす又畧て波須ともいふ
一名 荷 草芙蓉 水花 同

牽牛子(ケニゴシ) 本艸綱目 和名阿佐加保 蕣と書ハ別種なり蕣ハ木槿をいふ
一名 黒丑 白丑 盆甑艸 草金鈴 狗耳草

牡丹(ボタニ) 神農本艸 唐山にて花王と称す 和名ふかみ草 又廿日草 名とり草 同
一名 冨貴花 鼠姑 鹿韭 百両金 木芍薬

猿猴杉(エンコウスギ) 漢名未詳

梅茂登木(ウメモドキ) 正字未詳

水仙(スヰセン) 本艸綱目 一名 金盞銀臺 儷蘭 雅蒜 雅客 女史花 姚女兒花 同
又 ちゝみたかま 同

梅(ウメ) 本艸綱目 𣏾古字 楳 同 萬葉にハ宇米又牟女 同 ともあり
一名 百花魁 又好文木の稱ありて種類最多し 唯宇女とのミ称ふるものハ白梅なり



五鬣松(ゴエフノマツ) 五雜俎 一名五釵松 五粒松 松子松 華山松 五鬚松 同
又俗に五葉といふ

款冬(フキノトウ) 本草綱目 一名 款凍 顆凍 氐冬 鑽凍 菟奚 虎鬚 同

芒(スヽキ) 本艸綱目 古歌にハ乎花又波奈須々木などよめり 薄の字を用ゆるハ俗なり
一名 芭茅 杜榮 同

女郎花(ヲミナメシ) 漢名 敗醬 本綱
新撰万葉にハ女倍芝と書り

萩(ハギ) 萬葉にハ榛又芽子花 同 書り 和名 芳宜草 鹿名草 同
異名 隨軍茶 胡枝花

桔梗(キチカウ) 本艸綱目 和名抄に阿里乃比布木とかけり 又アリノヒフキ 同 本艸和名 又ひときくさ 同
一名 白薬 梗草 同
新撰字鏡に桔梗ハ阿佐加保又云岡止々支 七羊翁云萬葉集の朝皃を桔梗とする説此字鏡のかゝる所比誤より起れる説にて桔梗の花ハ朝開くものにかぎらざれバ非なるべし 今木槿とする説に従ふべしと有り

藤袴(フヂハカマ) 新撰萬葉 眞蘭也 アラヽキ 同 又燕尾香 同
古歌に蘭の字をフヂバカマと詠て今の蘭を上古顕ざりしにや 皇國にてハ中古以来の翫賞也

瞿麥(ナデシコ) 本艸綱目 常夏(トコナツ)古ハあてゝと云しを深殿大后壯(ワカ)くおはせし時撫子御と申せしかバ撫子花を移して常夏と唱たるよし 榊原玄輔の説なり
一名 蘧麥 大蘭 南天竺草 巨句麥 洛陽花
瞿麦を即石竹なり今蓓のめぐり刻歯有て切込あるを瞿麦といふ切込なきものを石竹といふ

葛（クズ）本艸綱目　和名久須加豆良　一名雞齊　鹿藿　黄斤

一葉（バラン）琉球國志畧　一名馬耳蘭　一帆青　一舩棋仝　但三名共ニ作名なり
又葉叢え花有ぬ知らざるの稱　馬蘭を早きの稱　或ハ大なるの稱也せるに用ゆべからず

連翹（レンギョウ）和名抄ニ以多知久佐　一ニ云以太知波勢
一名　三廉草本綱

芍藥（シヤクヤク）本艸綱目　和名抄ニ衣比須久須里　又沼美久須里仝
一名　將離　婪尾春　吐錦　嬌客　擲香瓊　冠芳　艶友　玉盤盂　何離　梨食　餘容　鋋
又良好草　犂冊　小牡丹千瓣ヲ云　此三名を和製の名なり
本綱ニ謂牡丹為花王芍藥為花相ト云云　其品位牡丹に亞ぐ也

芭蕉（バセウ）本艸綱目　和名にをみくさ
一名　甘蕉

八朔梅（ハッサクバイ）　うめの一種なり

蘓鐵（ソテツ）　此樹琉球より出るよし月令廣義ニ見えて彼土にては鐵樹といふ
又自ら生しも琉球より來るなり　此樹すでに枯んとする時其根に釘を打ば則活す
故に蘓鐵といふ　蘓ハ回生の義なり
一名鳳尾蕉　又番蕉仝

鷄冠木（モミヂ）　萬葉に蝦蟇手木と書り又和名抄には加倍天之木一ニ云加比留提乃木といふ
又鷄頭樹仝　漢名槭樹芳譜廣

樅（モミ）本艸綱目

長壽花（キスイセン）水曹清暇錄　近世蛮國より持渡る水仙の一種なり
蘭名フイヤシンド

紫竹（カンチク）本艸綱目　俗寒竹

側金盞花（フクジュサウ）桂海虞衡志　一名長春菊
和名　福寿草　元日艸仝　又ふくづくさ仝

山茱萸（サンシュユ）本艸綱目　一名肉棗　雞足　魃實　鼠天　蜀酸棗仝

萍蓬草（カハホネ）本艸綱目　和名抄ニ骨蓬とあり川骨と書は俗也
異名水栗子　又水栗とも

秋海棠（シウカイトウ）三才圖繪　一名　爛腸草　斷腸花　瓔珞草　八月春仝

櫻（サクラ）和名抄　皇國第一の賞花也清少納言が枕草子にも何にあるものに桜山吹と書り
佐久良を單に花と本とせ故にまた桜といひ華と書ひとへに桜を
花吹迺舍翁の説に佐久良に櫻の字を充るは甚古くより用ひ來つれど今も打任ていさゝか難あけ
ればもすことは桜の字正しからず櫻の字を用ひて佐久良にあてゝ熟叶へりと有

松（マツ）本艸綱目　案　枩　倶ニ古字

栁 本艸綱目　和名之太里夜奈木　一名小楊　楊柳ㇳ　釋氏呼テ曰尼倶律陀樹ト

薔薇 本艸綱目　和名無波良　一名牛勤　刺花　墻蘼　山棘　牛棘　長春ㇳ

菜花

觀音蓮 南寧府志

娑羅　又夏つばきㇳ共ニ和名方言なり漢名なし

百合 本艸綱目　一名摩羅　卷丹ヲニユリヲイラ也　山丹ヒメユリ 本艸綱目

檉栁 本艸綱目　一ㇳまり三次作ㇳ系故ニ三春栁とも

水楊 本艸綱目　一名青楊　蒲楊　移栁　雚苻　和名抄ニ加波夜奈木とあり又銀栁　豕子栁　狗栁ㇳ　但三名ハ和ノ製名なり

番牡丹 臺灣府志

淺葱水仙　水せんの一種なり



金絲桃 群芳譜　俗ニびじよ柳と云

ゑにしだ　金雀花の字を充る事久し蘭山翁も是を訛てとす　かき桃桐遺筆ニハ飛來鳳を充ㇳ是亦信じがたし

耬斗菜 救荒本艸

棠梨 本艸綱目　一名ヤブリンゴ　京師ニ今世三四月の頃此嫩葉を賞して專ら瓶花ニ用ふ

躑躅 本艸綱目

薦草 本艸綱目　一名蓆草

棣棠花 本艸綱目　事なり　萬葉ニ山吹又山振とも書て款冬と書は誤り也款冬を和名ヤマブキと言て落の

一名地棠花　麻葉棣棠　金棣棠　黃棣棠　ひとへなるを金盌といふ古人誤り金盌玉水の四字を名とほすハ古書の單葉者名金盌玉水と言る註を讀誤てしなりとこれは羊翁の解

むさしあぶみ　天南星の一種なり　漢名未詳

鳳尾竹 本綱竹集解　俗云鳳凰竹

紅紫馨（ニチニチサウ） 廣東新語

天女花（ミヤマレンクハ） 雲南通志　俗大山蓮花ナリ

玉簪花（ギボウシ） 本艸綱目　一名白鶴仙　白萼　季女　白鶴

矮檜（ハイビヤクシン） 事言要玄

溫牡丹（カンボタン） 乾隆御製集　又冬牡丹ナリ

落葉松（フジマツ） 衡嶽志　一名金錢松

濱菊（ハマギク） 漢名未詳　また吹上菊ともいふ

翠菊（コンキク） 群芳譜

茶梅花（サザンクワ） 群芳譜　左牟佐久波也　山茶に類して別也　茶梅ハ冬を盛りとし山茶ハ春を盛りとする也

一名　海紅　臘識　遍地錦

白藤花（ハクトウクワ） 本艸綱目

鳶尾（イチハツ） 本艸綱目　一名　烏園　紫蝴蝶　紫羅傘　紫羅襴花　和名　古夜須久佐

玉蘭（ハクモクレン） 秘傳花鏡　又木蓮ナリ



南天燭（ナンテンシヨク） 本艸綱目ニ云南燭是木而似草故稱草木之名云云　一名惟那木　男續　猴菽艸　牛筋　烏飯草　墨飯艸　染菽　楊桐　又蘭天竹ナリ

八角金盤（ヤツデノキ） 本艸従新

射干（ヒアフギ） 本艸綱目　一名野萱花　草薑　黄遠　仙掌　紫金牛　烏扇　烏翣　烏吹　烏蒲　鳳翼　鬼扇　また俗に檜扇と云

彼岸櫻（ヒカンザクラ） 餘のさくらに先つて春分の頃彼岸時分のはなさくを以て名とせり　又新正櫻とも

桃（モヽ） 本艸綱目　一名仙果花　古事記に毛毛ハ意富加牟豆美命と名をたまひし事見えたり

花菖蒲（ハナシヤウブ） 古歌にあやめとよめるは澤に生る菖蒲にて別種なり　種類最多し今世に活花に用る舞鶴さつま抔いへるものハ其花種に揚たり　又花あやめと言る一種あれども是を漢名蘭蓀溪蓀などいふとみえて同花別種なれど葉茎ともに痩小にして且やさしく葉しやうぶと混ずべからず

豌豆（エンドウ） 本艸綱目　一名　胡豆　畢豆　九豆　寒豆ナリ

人面竹（ホテイチク） 本艸彙言

通計八十一種所出三四五之卷中也

## 跋

壽棠園水谷君以瓶華技名于家新著活花手引種後編初成一日訪余與其名稱且書其後余閲之其布置整敧向背曲折之法繁於



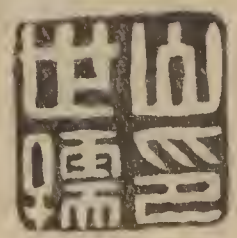
大備於是喟然嘆曰物有榮辱命有通塞豈唯人也哉雖花亦然夫妖紅冶翠含露搖風靡然亂開者花之常也今也正々焉堂々焉右者不得左後者不得前不如

法者斬而去之者孫武子之
侫美人謂兵也螺枝曲榦
乍跌乍容肆於自恣者木
之性也今也揉之使直扶之
使聳一枝一葉井然秩然者
叔孫通之合將士習礼也及至



高堂之上明窓之下華筵之
几寶瓶玉壺懸於既加布
置以宜則花亦榮矣哉而
君猶以爲未足覃其恩渥至
寵肖之容款題之名字上之
梨棗傳之久遠者亦猶凌烟

麒麟之造意也然是亦榮之極也余於斯技固所不能也今閲此巻只知其為花之榮而已雖然無榮之辱之者自人而言之也自花而言之則吾未知無為榮為辱為幸為不幸也吾將問之於花

止華題

男秀夫書

津逮堂藏版

京都市三條通御幸町角

吉野屋 大谷仁兵衛